

My★ベスト

スリー

3

100号までたくさんのお本を紹介してきた「やすど!」。現在編集員をつとめる4人にベスト本3冊を聞いてみました!

現編集長

(ざ) のベスト3

1. 『モボモガ』 結城弘/著 京都アニメーション
2. 『九つの、物語』 橋本紡/著 集英社
3. 『魔法少女ダービー』(1・2) 土橋真二郎/著 KADOKAWA



1. 野洲市出身の結城弘さんの2作目なのですが、ひいき目なしに、私的最高の作品です!伏線の張り&回収が鮮やかだわ、SF感わくわくするわ、胸をえぐるストーリーだわ、恋愛模様も泣けちゃうわで…魂揺さぶられる作品とはこのことか。必見なのはエピローグ。必ず、必ず、本編を読んでから最後に読んでくださいね!!
2. 良い本を読んだときって、読んでいたときの風景とか匂いとかまで覚えていませんか??私はこの本を通学の電車内で読んでいたのを今でもよく覚えています。主人公にとって辛いことが起きているはずなのに、隣にいる人を大切にしたいという気持ちが芽生えて、不思議と心が温かくなるのです。タイトル通り9つの物語から成るお話で、それぞれ文学作品がモチーフになっており、文学に興味を持つきっかけにもなった1冊です。
3. とにかく展開がすごかった。この時期、可愛い女の子たちの「ダービー」と言うたら、「う〇ぴょい♪」だと思って呑気に構えるじゃないですか!!それがこうなるとは…! (『生贄のジレンマ』などの作品で有名な土橋さんですから、そりゃそうか…!) ジェットコースターのような展開に、息をするのも忘れて読みました。

YA担当暦長し!

(る) のベスト3

1. 『精霊の守り人』(守り人シリーズ)上橋菜穂子/著 偕成社
2. 『二周目の僕は君と恋をする』 瑞智士記/著 KADOKAWA
3. 『異世界食堂』(1~6) 犬塚惇平/著 主婦の友社



1. 紹介するまでもない、ザ王道!のファンタジー本です。読むたびに新鮮な気持ちで、物語の世界に引き込まれます。とにかく女用心棒のバルサがかっこいい。武術だけでなく本当の意味で強い。頭の中で大冒険が繰り広げられ、とにかく圧倒されっぱなしです。つよさとは、やさしさとは何かをわたしはこの本で学びました。そうだ、だから私は本を読むのが好きだったんだ!と子どもの頃に夢中になって読んで、本の世界にどっぷり浸ったあの感覚を思い出すシリーズです。
2. せつない、かわいい、きゅんっ♪があちこちにちりばめられたラブストーリー。最愛の彼女、茉莉が消えて、抜け殻のような生活を送っていた崇希。ふとしたきっかけで、茉莉と初めて出会った日にタイムリープします。今度こそは彼女を失わないように、奮闘する崇希ですが…。二周目の出会いでも、新鮮に茉莉にときめく崇希が一途でかわいい。物語に登場する地名にもご注目ください。
3. エルフや魔族が登場し、異世界とつながるファンタジーもの、たとえば『ナルニア国ものがたり』ですね。『異世界食堂』の設定は、異世界の住人がやってくる逆ナルニアパターンですが、でもなんといってもメインは料理。各章の料理の描写がたまりません。おいしそうすぎて、いいチョイスやん!と魔族に親近感を抱きつつも、ファンタジーの世界も楽しめます。読み進めるごとにお腹がグウルグウルになってしまう飯テロ本。

(ち) のベスト3

1. 『ゼバスチアンからの電話』

イリーナ・コルシュノフ/著 白水社

2. 『100歳の少年と12通の手紙』

エリック=エマニュエル・シュミット/著 河出書房新社

3. 『生きる冒険地図』 プルスアルハ/著 学苑社



1. ザビーネの一家は仲の良い家族だ。ただ、父に言いなりの母には、たまにイライラする。なのに初めての彼ゼバスチアンに、母と同じ態度を取っていることに愕然とするザビーネ。バイオリンのことが最優先のゼバスチアンの電話を待って、待って……。

ああ！ 若かった自分にとって身につまされすぎた！ あらためて読んでも古びていない感じ。出てくる電話は、家の固定電話と公衆電話だけれども。

2. オスカーは10歳の男の子。重病で入院しています。オスカーの目下の関心事は、「自分は死ぬの？」ということ。お医者さんや、両親は、つらくて答えられません。そんなとき、オスカーの質問を真っ向から受け止めてくれたのは、病院ボランティアのローズさんでした。近しい家族や友達だけじゃなくて、もっといろんな人が周りにいることで、人生はこんなにも豊かになると教えてくれた本です。

3. すごく困っているときにネット検索すると、怖いことばかり目についてしまうんじゃないでしょうか。そんなとき開いてほしいのが、この本。全部で47ページ。大切に具体的なことしか書いていません。相談できる大人はどこにいる？ ごはんを作ってもらえなかったら？ など、困ったときに、この本が図書館にあるって、思い出してもらえたらうれしいです。

番外編

初代編集長

(は) のベスト●

甲乙つけがたし！

1. 『半分の月がのぼる空』 橋本紡/著 メディアワークス

1. 『彩雲国物語』 雪乃紗衣/著 KADOKAWA

1. 『銀河英雄伝説』 田中芳樹/著 東京創元社



20年以上にわたるオールタイムベスト……3冊に絞るとか無理！！ ということで、この欄では上記“言わずもがなのベスト3”を除き、必読本をご紹介します！（上3作は問答無用で読んで！ 人生観変わる？ 超傑作やし！）まずはラノベから『とらドラ！』（竹宮ゆゆこ）はハイテンションラブコメの傑作。クライマックスの熱量が半端ないのだ！ 世界系ボーイ・ミーツ・ガールの『イリヤの空、UFOの夏』（秋山瑞人）、将棋テーマとしては『3月のライオン』に比肩しうる『リゅうおうのおしごと！』なども是非。YA文学からは、怒涛の展開に「わーーーーっ（泣）」となること必至の『どろぼうのどろぼん』（斎藤倫）、ちょっとナイーブな音楽小説『ぎぶそん』（伊藤たかみ）、一人の女の子をめぐる心温まる作品『まつりちゃん』（岩瀬成子）、生きる勇気、元気をもらえる『妖怪アパートの優雅な日常』（香月日輪）も。一般文芸からは保健室登校の少女たちをめぐる連作集『雨の降る日は学校に行かない』（相沢沙呼）、そしてサッカーから2冊、弱小チームからの成り上がりが熱い「レッドスワン」サーガ（綾崎隼）と、PK戦で0-2とリードされた絶望的な状況からの緊迫した勝負を描く『神様は勝たせない』（白河三兎）を推したい！ 外国文学では『僕らの事情。』（デヴィッド・ヒル）、『ユゴアの不思議な発明』（ブライアン・セルズニック）、小説以外からは、『おばあちゃんがぼけた』（村瀬孝生）、『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（ブレイディみかこ）『マルコとパパ』（グステイ）辺りは読んでほしい。ああ、字数うう